



# 広島中央トピックス

## 女性後継者へ伝承 初めての米作り講座

広島中央地域本部は、女性の水稻栽培初心者対象の米作り講座を開き、栽培技術を伝えていきます。米作りを基礎から教えることで、次世代の後継者を支援し、円滑な事業継承につなげます。

講座は1月に開講し、最終回の12月まで毎月1回開きます。米作り未経験者や、主体として携わっていなかった人など17人が受講。全12回の講座で、育苗や代かき、田植え、水管理、防除、収穫など作業時期に合わせた内容を営農指導員が分かりやすく教えます。

2月16日に東広島市のJA高屋支店で開いた講座では、広島中央農機センターの職員や農機具メーカーの担当者が、農作業事



▲草刈りを体験する参加者



▲田植え機の操縦を体験する参加者

故の実態や防止対策を説明しました。参加者は、トラクターと田植え機に乗車して前進や旋回を体験し、草刈り機で畦畔の草を刈りました。

参加した阿部ナツさんは「家の周りに田んぼが多いので、自分で米を作ってみたい」と思い、参加した。実際に機械の操作も体験できてよかった」と話しました。

同地域本部営農経済部の西田聡副部長は「米の魅力を感じてもらうことで、米食中心の日本型の食事に見直すきっかけにしてほしい。女性の活躍は今後の農業に欠かせない。安全に営農できるように手法を講座で伝えたい」と意気込みます。

## 青果販売DXコンソーシアム 成果検討会で情報共有

広島中央地域本部が導入した集出荷作業をデジタル化するシステム「みどりクラウド・らくらく出荷」の成果・検討会が2月15日、広島大学で開かれました。

同システムは、IT企業のセラクとJAが共同で構築し、広島大学や国の機関が運営に協力しています。生産者の出荷作業の軽減、JA担当者の集荷販売に係る作業の労力軽減や迅速な出荷報告による優位販売などを目的に、昨年2月に大和アグリセンターで試験導入しました。農林水産省などの補助事業を活用し、昨年12月には全アグリセンターに導入しました。

検討会では、生産者の出荷作業に係る時間やJA営農指導員の集荷・販売に係る時間が削減できたことなどが報告されました。また、全アグリセンターに導入したことで販売先への報告時間が大幅に短縮できたことなども情報共有されました。今後は、精算システムと連携することで、販売代金の迅速な精算につなげることなどが検討されました。



▲JAの取り組みについて説明する職員





# 水稲

## 田植えに向けて

### ◆春の耕起作業

4月に入り、いよいよ本田管理が始まります。今月号では春耕起から田植えまでの管理について説明します。春耕起は田植えに向けた仕上げの作業で次のような目的があります。

- ① 地表の有機物をすき込むことで地力の向上と雑草を防ぐ。
- ② 硬い土を砕き空気を含ませることで代かきの効率を上げる。

### ◆作業のポイント

湛水前の水田の土壌は、乾燥されると土壌中に含まれる有機物の分解が進み、土壌中の窒素量が増加しま

す。その後、湛水すると微生物の活動で無機態窒素状態となり、稲が生育中に吸収できる窒素量を蓄えることができません。このような効果を「乾土効果」と言い、この効果を高めるためには、水田の土壌をできるだけ乾燥させた状態で耕起作業を行うのが理想です。土壌が湿った状態でのすき込みは、乾いた時に土が硬い塊となり、その後の作業に負担が生じます。

### ◆代かき

代かきは水田を平らに整え、入水後の水を均等に行き渡らせるための作業です。他にも苗の活着を促し、水漏れや浮きわら、雑草の発生を抑えるなど今後の稲の生育を左右する要素が多くあります。代かきは田植えと違い、同じ場所を何度も往復することができると、丁寧に水田の凹凸をならしていくことが重要です。同じ場所を何度も行き来するとトラクターの重さにより沈み込み、過度な深耕となるので注意しましょう。

### ◆荒代

荒代は、田植えのために行う最初の代かきのこと、田植え10日前頃を目安に行ないます。耕起終了後、荒代までに水を入れ、しっかりと

土を湿らせて土塊を柔らかくしておきます。荒代直前の水管理は水面が2〜3割、土が7〜8割見える程度の浅水に調整し、荒代終了後は入水して自然減水させます。浅水での代かきは稲わらや雑草が土中に埋没しやすく田面の均平確認もしやすくなります。また、荒代の際は、漏水防止のため圃場の外周は丁寧に丁寧に行ないます。

### ◆本代

初期剤を処理しない場合、雑草が発生しやすいため、本代は田植え3〜4日前頃を目安に行ないます。本代も荒代と同様に水位1cm程度の浅水に調整します。本代は田植え前の仕上げの作業になります。かき過ぎは土壌の酸欠状態を招くことから生育不良の原因にもなるので注意して行ないましょう。

### ◆田植え

田植え時の水位が高いと浮き苗になったり、田植え機で印を付けていくマーカーが見えづらいなどの懸念材料が多くあります。本代終了後は、追加入水を行ない、水位1〜2cm程度に調整し、湛水後は土壌が適度に沈降して落ち着くのを待ちます。

植え付けの深さは2cm程度を目安とします。深植えは活着が遅れる原因になります。田植えは低温や強風の日にやると活着が悪くなり、初期の生育に影響を及ぼします。できる限り風の弱い温暖な日に行ないましょう。

### ◆田植え直後の水管理

田植え直後は、苗が水没しない程度の深水管理で活着を促します。田植えの時期は、まだ気温が低いので、水の保温力で苗を保護します。苗は活着することで新しい根が十分に養分や水を吸収できるようになります。

活着後は3cm程度の浅水管理で水温、地温を上昇させて分けつを促します。強風や夜間の冷え込みが心配される場合や、曇天で水温、地温が上がりづらいときは5〜6cm程度の深水管理をしましょう。



# 野菜

## 夏秋野菜の定植準備

### ◆圃場準備

まず、前年に何を栽培していたかを確認しましょう。夏秋野菜の代表格であるナス、ピーマン、トマトなどは連作を嫌います。連作となる場合は他の作物に変更するか、圃場面積が限られている場合は「接木苗」などを購入するように注意しましょう。

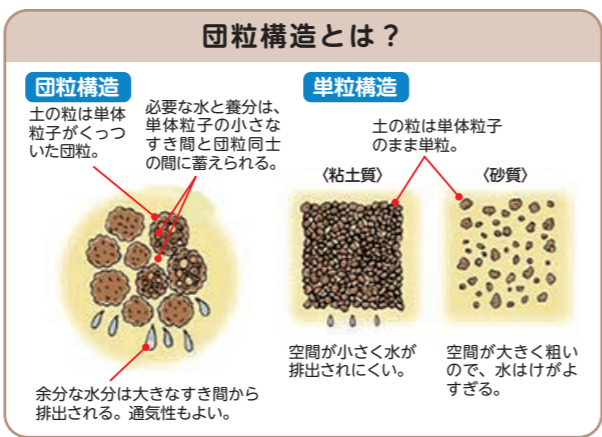
### ◆耕うん作業

一般的に夏秋野菜は栽培期間が長いので、圃場準備時期の作業が栽培中盤〜後半まで影響を及ぼします。特に次の点に注意し、圃場準備を行ないましょう。

- ① 耕うんは圃場水分が適切な時に行なう
- ② 完熟たい肥を施す
- ③ 土壌団粒化を意識した土づくりを行なう

近年問題となっている梅雨時期の長雨対策としての「額縁明渠（がくぶちめいきよ）」の設置もこのタイミングで行ないましょう。

### ◆土壌の団粒化を作るポイント



団粒構造を作るためには、前述のとおり完熟たい肥や腐植を高める資材を利用し、土壌水分が適切な時（土壌表面が光沢を帯びている場合は過湿、砂ぼこりが立つようでは乾き過ぎ）に耕うん作業を行なうようにします。

### ◆地温を高める！

夏秋野菜は特性上、暖かい気温と床の温度（地温）が十分ないとうまく生育しません。家庭菜園で一般的に施される「敷きわら」は夏場の地温を下げる効果がありますが、春先に地温を上げる

効果はほとんど期待できません。黒マルチ等の地温上昇効果の高い資材を利用するようにしましょう。

### ◆マルチングのポイント

4月下旬から夏秋野菜を定植する5月上旬〜中旬は例年、強風が多い傾向にあります。マルチングによって高めた地温を下げないように、写真のようにマルチが飛ばない工夫をしましょう。なお、マルチングは定植の7日前までには済ませるよう心掛けましょう。



マルチ後にビニル紐などで補強します

### ◆定植作業

定植はなるべく風が弱い日を選び、苗が傷まないよう注意します。また、定植後は仮支柱を立てて苗のぐらつきを防ぎ、活着を促進しましょう。



▲ボンバルディア（灌注・葉面散布剤）



▲メリット（葉面散布剤）

### ◆猛暑対策は早目に！

令和5年産の野菜栽培は、過去の例を見ない猛暑の影響を受け、各地で生育不良や減収が見られました。異常気象の対策は土づくりと併せ、初期からの入念な管理が重要です。次のような対策を早めに施し、「気象に左右されにくい野菜作り」を目指しましょう。

- ◆猛暑対策資材
- ① 敷草・敷きわら
- ② 液肥
- ③ バイオスティミュラント資材

## 大型特殊自動車運転免許（農耕車限定）取得に向けた講習会および試験のお知らせ

道路運送車両法の運用見直しに伴い、農耕車の公道の走行時法令順守に取り組むため、JA全農ひろしま主催による講習会が次のとおり開催されます。

次年度は、受講費用が大幅に上がる見込みです。免許取得を検討されている方は今年度の取得をおすすめします。

つきましては、**希望の日程を各アグリセンターでお申し込み**ください。

### 開催日時

講習	講習日程 (注)土日は休講としますが、祝日は開催します。	試験日	申込期日(厳守)
第1回	6月25日(火)～7月2日(火)	7月3日(水)	5月10日(金)
第2回	9月17日(火)～9月24日(火)	9月25日(水)	7月5日(金)
第3回	10月8日(火)～10月15日(火)	10月16日(水)	
第4回	11月5日(火)～11月12日(火)	11月13日(水)	

**開催場所** 講習：全国農業協同組合連合会広島県本部 広島営農技術センター（東広島市河内町入野11631-13）  
試験：広島県自動車運転免許三次試験場（三次市島敷町1880-11）

**受講人数** 12～14名/回 ※応募が定員を超過した場合、抽選になります。

**受講費用** 38,000円(税込) ※受験料2,600円(非課税)が別途必要です。

**申込方法** お近くのアグリセンターでお申し込みください。

**抽選結果** 抽選により決定した受講者への連絡は、当JAを通じて行ないます。別途必要書類をご記入並びにご準備いただくようになりますので、ご了承ください。

なお、**抽選結果の個別連絡は、決定した受講者のみとさせていただきます。**

(第1回、第2回～第4回は、まとめて抽選が行なわれます。)

### 留意事項

- 講習会の受講によって必ず免許取得とはなりません。講習会終了後に実施される試験を受験し、合格者のみ免許交付となります。
- 講習会は、全日程参加(土日を除く6日間)が受講条件となります。
- この試験は、広島県自動車運転免許三次試験場で、広島県警察の協力のもと、講習会で使用したトラクタにより行なう大型特殊自動車運転免許(農耕車限定)取得の試験です。

ご不明な点は、こちらにご連絡ください  
**営農支援センター**  
TEL: 082-423-5913

### 広島中央農機センター 農繁期の休日対応について

広島中央農機センターでは、春の農繁期に次の期間、土・日・祝日の休日営業を実施します。  
どうぞご利用ください。

**【実施期間】 4月20日(土)～5月26日(日)**

### アグリセンター 5月の休日営業お知らせ

広島中央地域のアグリセンターでは5月、土・日・祝日の休日営業を実施します。  
どうぞご利用ください。

**【営業時間】 午前8時30分～午後5時**

※6月以降の日程は、来月号でお知らせします。

東広島市  
園芸センターより

## 展示ほ場のご紹介

問い合わせ  
東広島市園芸センター Tel. 082-433-4411

園芸センターで栽培している夏秋向けの作物を紹介します。

### 【ビニールハウスでは】

- ホウレンソウの品種比較
- ミニトマトの横誘引
- トルコギキョウの品種比較
- ブドウの新品種展示

### 【露地では】

- ナスの展示栽培
- カボチャの2作栽培
- 春ネギの品種比較
- 馬鈴しょの品種比較
- タマネギの展示栽培



▲ミニトマトの様子



▲トルコギキョウ

その他の作物についても有望品種の比較展示栽培を行なっています。  
ぜひご来場いただいて、栽培の様子も併せてご覧ください。

地域本部制度廃止に伴うご案内チラシに、一部誤りがありました。ATMコーナーの一時休止の対象ATMコーナーに「とれたれ元気市となりの農家店出張所」となりましたが、正しくは「とれたれ元気市となりの農家店出張所」でした。